

暖地馬鈴薯の育種に関する研究

(第4報) 植付時期と開花について

北野保樹・室園正敏・佐田満

(長崎県総合農林センター愛野馬鈴薯センター)

KITANO, Y., MUROZONO, M. and SADA, M.

Studies on the Breeding of Potato in the Warmer Region of Japan

(IV) The effect of planting time on the flowering of potato plant

馬鈴薯では各品種系統とも、開花時期がほぼ同時であるため、交配の範囲は労力的にかなり限られることが多い。よって、交配時期の拡大を目的として、植付時期を異にした場合、開花数等にいかなる差異を示すか、1964年～1965年の春作について調査した。1966年の春作では交配試験を行ないその実用性を検討した。尚、秋作については一部試験した結果開花数が少なく、実際交配に供しうる割合が低いので、ここでは春作のみについて報告する。

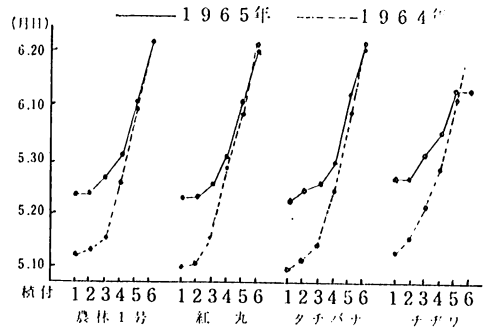
試験方法

種薯は愛野馬鈴薯センター前年秋作産のものを用いた。'64年、'65年は農林1号、紅丸、タチバナ、チヂワの4品種を、'66年は前記4品種を母本とし、長系60号、長系65号を父本として供試した。1品種20株、1区制とし、'64年、'65年は標準の植付〔I〕(3月4日)から2週間毎に6回、'66年は標準植〔I〕(3月9日)と4月中旬植〔II〕(4月13日)の2回植付けた。'64年は茎数は制限しなかったが、'65年、'66年は1本に制限し、その他はすべて標準耕種法によって実施した。

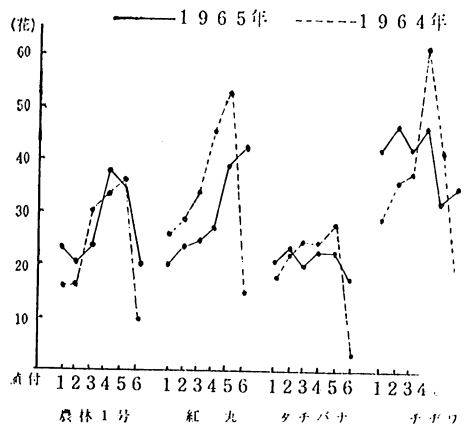
試験結果及び考察

開花期は第1回の植付に対し、第4回植で1～2週間おくれ、第5回植では更に約10日程おくれた。開花数は第4、第5回植で多くなるが、これは第1花房の花数が増すと共に、第2花房、側枝花房の開花する割合が多くなるためである。'66年に交配試験を行った結果、4月中旬植('64年、'65年の第4回植)においても標準植に対して劣ることはなかった。以上の結果、標準の植付に対し6～7週間おくらせて植付け、交配に供しても十分目的を達しうるものと考えられる。

第1図 開花期の移行



第2図 開花数(株当)



第3図 交配成功率

